

5章-加筆修正案

5 園内全体の計画

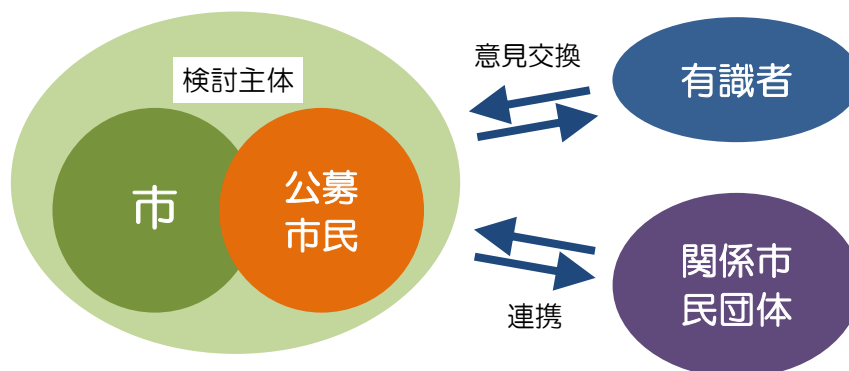
5.1 基本的な考え方

常磐公園には数多くの種類の樹木があり、自然環境調査の結果から、そこには昆虫や小動物など、様々な生物が集まっていることがわかりました。しかし一方で、常磐公園では、短命の早生樹種が主要部を占め、それらが寿命を迎え徐々に衰退しつつあるといった状況にあります。

本計画では、ここまでに緩傾斜化部分における緑や生態系環境の復元を図ることを念頭に、「百年かけて育む、周辺と調和した彩りあふれる空間」をテーマとし、「みどりの景観への配慮」、「地域性の確保」、「動物・生態系への配慮」といった3つの観点からの基本方針を定めていますが、これらを常磐公園全体のテーマや基本方針として位置づけ、公園全体の緑を守り育て、その質を高めていく取組みに広げていく必要があります。

自然界と同様に公園内においても、樹木の生長や老朽化等により、その環境は、時間と共に変化していくものであり、今回行われた自然環境調査を基に、今後も継続的に調査を行い、環境の変化や社会ニーズの変化に合わせた、緑の更新や維持管理が必要となるほか、常磐公園の緑がもつ自然本来の力を活用して、これまでには無い、新たな公園の魅力を創出する取組みも必要となります。

そのため、今後は利用者である市民と一緒に、常磐公園を見守りながら状況を把握し、「常磐公園の緑の計画」や本計画の基本方針に照らしながら、適切な対応策を検討できる体制を構築し、その中で、計画的な緑の更新や適切な維持管理を市民協働により実践し、時間をかけながら公園づくりを進めていきます。



市と公募市民で構成される組織を構築し、必要に応じて有識者等をアドバイザーとして招き入れるほか、関係市民活動団体とも連携した活動を行う。

図 16 組織体制のイメージ図



図 17 PDCAイメージ図

5.2 ブッシュ・水辺ビオトープの形成

・芝地と比較して豊かな動物相を育むことができる、ブッシュや水辺ビオトープを形成する。

生態系調査からは、草地周辺や水辺において昆虫類相が豊富であるとの結果が得られています。草刈り等の管理を低減することで、特に昆虫類等の生育環境となるブッシュ（草地や低木林）や水辺ビオトープを、園内の数カ所に形成します。

草地やブッシュ環境の創出のためには、低管理・無管理（放置）が必要となり、人の立ち入りがある程度制限する必要があります。また、公園としての安全管理上からも、ある程度の制限が必要となります。

しかし、制限の内容は、周辺樹木の危険度や、その対処法により異なりますので、具体的なブッシュの区域を定める際に、人の立ち入りが可能な範囲等を維持管理手法も含め専門家の意見を聴きながら検討します。

ブッシュ内は、管理用の通路を除いて、平常時は立入禁止ゾーンとします。また、管理は基本的に実施しませんが、草本が大きく生長しすぎてしまい防犯上支障がでるような場合には、最小限の管理を行います。

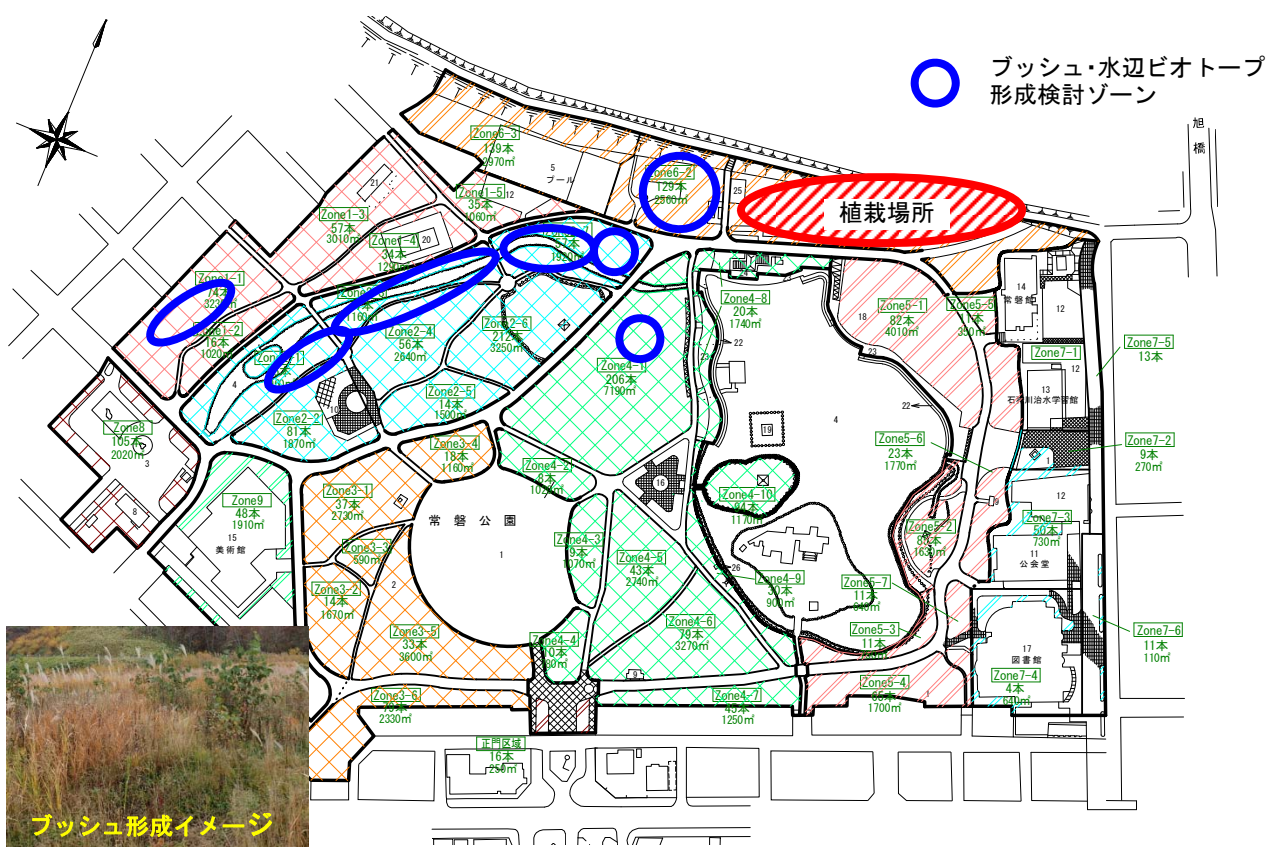


図 18 ブッシュ形成検討ゾーン

5.3 緑の維持管理

(1) 樹木の成長に合わせた維持管理

- ・ 樹木は継続した監視を行い、危険木化を早期に把握するとともに、更新が必要な危険木については、計画的に適切な措置を行う。
- ・ 具体的な対処方法等については、市民共同組織を設立し検討を行う。

樹木の維持管理台帳を作成し、「常磐公園の緑の計画」に定められた樹木診断基準に従って、樹木の危険木化を監視していきます。危険木化が進行している樹木については、時間をかけた適切な更新作業を進めます。

次ページ以降に、生態系調査により把握した、園内の主な樹木の分布状況を示します。

具体的な危険木の対処方法や樹木更新時の樹種選定等については、市民協働組織と協議し決定します。

(2) 下草の管理

- ・ 下草はその質を見極め、過度な管理を行わないようにし、生育する草花と昆虫や小動物の生息環境の保全を図る。

常磐公園には、樹木だけでなく、様々な草花が生育しています。また、草地は、そこを利用する昆虫や小動物の生息環境となっています。芝地の管理にあたっては、生育する草本類の質（種類や種数）を確認し、芝草以外の草本類が優占している場合等には、過度な管理は控え生育状況に応じた管理を行っていきます。

表 17 常磐公園で確認された主な草花

科名	種名	備考
タデ	ミズヒキ	
キンポウゲ	フクジュソウ	
	ニリンソウ	
オトギリソウ	オトギリソウ	
ケシ	クサノオウ	
アブラナ	コンロンソウ	
バラ	キンミズヒキ	
	オオダイコンソウ	
カタバミ	カタバミ	重要種
アカバナ	ヤマタニタデ	
セリ	ミツバ	
アカネ	ヨツバムグラ	
シソ	カキドオシ	重要種
ユリ	ホウチャクソウ	
	クロユリ	
	キバナノアマナ	
	タチギボウシ	
	アマドコロ	

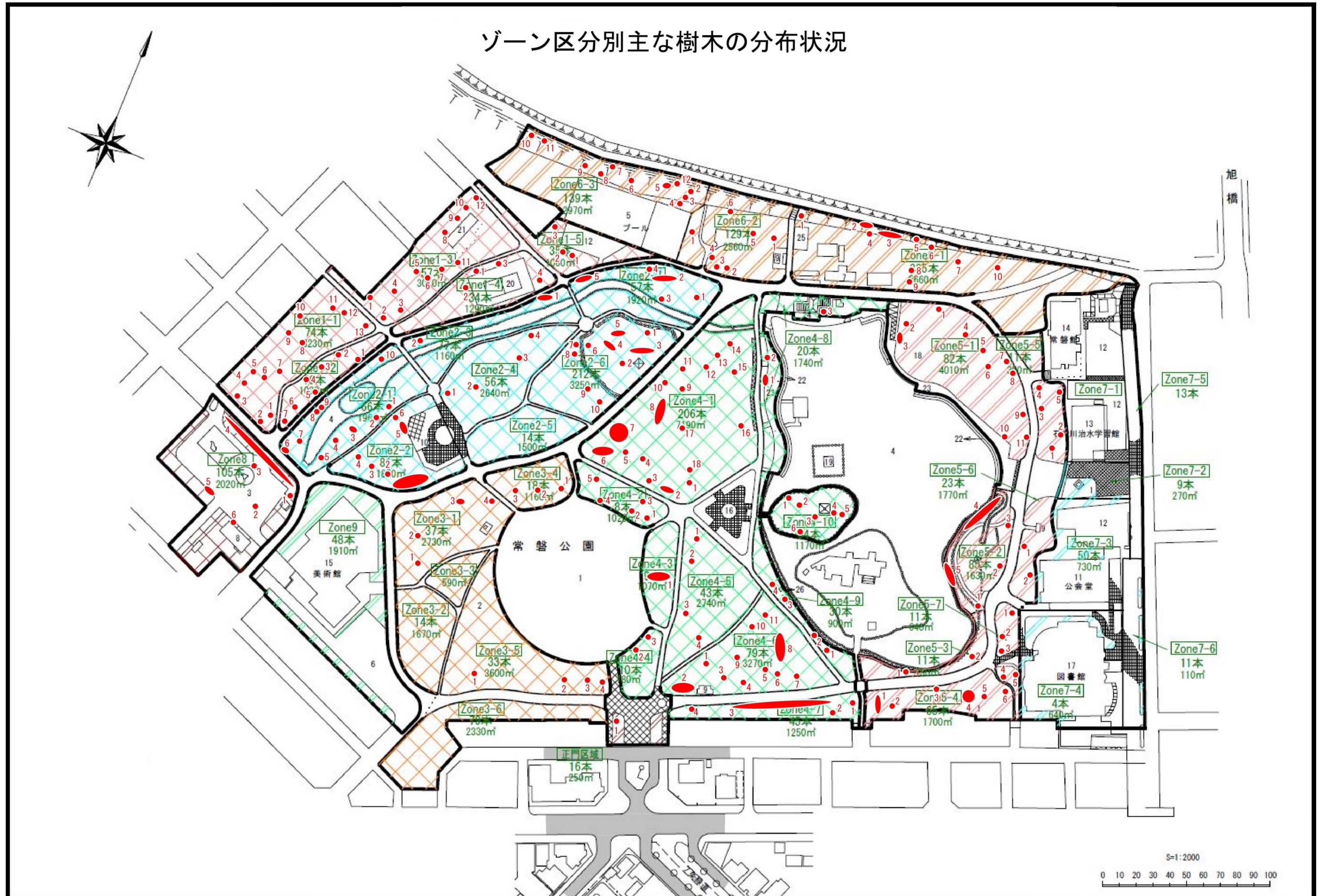


図 19 常盤公園内のゾーン区別主な樹木の分布状況

表 18 主な樹木の状況

Zone1-1				
No.	樹種	胸高直径(cm)	樹高(m)	備考
1	イチヨウ	65	22.2	
2	エゾイタヤ(イタヤカエテ)	75	20.1	
3	エゾイタヤ(イタヤカエテ)	70	23.0	
4	イチヨウ	60	22.4	
5	エゾイタヤ(イタヤカエテ)	80	24.4	
6	ストロブマツ	70	28.2	
7	イチヨウ	50	21.5	双幹
		55	22.3	
8	ハルニレ	105	29.3	
9	ハルニレ	125	23.0	
10	ストロブマツ	60	17.0	
11	エゾイタヤ(イタヤカエテ)	65	14.4	
12	エゾイタヤ(イタヤカエテ)	80	29.2	
13	ヨーロッパアカマツ	60	18.2	

Zone2-3				
No.	樹種	胸高直径(cm)	樹高(m)	備考
1	セイヨウハコヤナギ	70	20	
2	セイヨウハコヤナギ	70	20	
	ナナカマド	15	4	キツツキ穴

Zone2-4				
No.	樹種	胸高直径(cm)	樹高(m)	備考
1	カツラ	40	15.3	双幹
		45	15.3	
2	ハリエンジュ	105	31.3	
3	ミズナラ	75	17.8	
4	オニグルミ	80	16.0	

Zone2-6				
No.	樹種	胸高直径(cm)	樹高(m)	備考
1	ハルニレ	100	31.1	
2	ヨーロッパアカマツ	50	24.2	
3	チョウセンゴヨウ	35	17.0	
	チョウセンゴヨウ	45	19.0	
	チョウセンゴヨウ	40	18.7	
4	ハルニレ	60	24.5	
	ハルニレ	25	20.7	
	ハルニレ	55	26.7	
5	ヨーロッパアカマツ	45	23.1	
	ヨーロッパアカマツ	35	15.9	
6	ハルニレ	75	21.5	
7	ハリエンジュ	45	14.0	
8	セイヨウハコヤナギ	140	34.2	
9	ストロブマツ	60	24.9	
10	キタコブシ	65	15.3	樹洞

Zone1-2				
No.	樹種	胸高直径(cm)	樹高(m)	備考
1	エゾイタヤ(イタヤカエテ)	50	21.3	
2	エゾイタヤ(イタヤカエテ)	90	22.5	
3	ヨーロッパトウヒ	70	28.7	
4	エゾイタヤ(イタヤカエテ)	65	21.8	
5	エゾイタヤ(イタヤカエテ)	75	21.5	
6	ハリギリ	40-80	21.0	叢生 4本
7	ハルニレ	65	23.5	

Zone1-3				
No.	樹種	胸高直径(cm)	樹高(m)	備考
1	ハルニレ	90	16.0	
2	エゾイタヤ(イタヤカエテ)	85	19.3	
3	エゾイタヤ(イタヤカエテ)	65	20.2	
4	エゾイタヤ(イタヤカエテ)	95	23.7	
5	エゾイタヤ(イタヤカエテ)	95	24.6	
6	ヨーロッパアカマツ	55	18.7	
7	イチヨウ	70	17.8	
8	エゾイタヤ(イタヤカエテ)	90	20.5	
9	エゾイタヤ(イタヤカエテ)	70	21.3	
10	エゾイタヤ(イタヤカエテ)	75	17.5	
11	エゾイタヤ(イタヤカエテ)	70	25.1	
12	スモモ(枯死木)	40	4.0	キツツキ穴

Zone1-4				
No.	樹種	胸高直径(cm)	樹高(m)	備考
1	エゾイタヤ(イタヤカエテ)	75	22.6	
2	エゾイタヤ(イタヤカエテ)	70	20.9	
3	ハルニレ	90	20.5	
4	ドロノキ	85	23.4	

Zone1-5				
No.	樹種	胸高直径(cm)	樹高(m)	備考
1	ハリエンジュ	45	19.6	
2	ハリエンジュ	70	20.6	
3	エゾイタヤ	50	14.2	

Zone2-1				
No.	樹種	胸高直径(cm)	樹高(m)	備考
1	シロヤナギ	110	20.6	
2	ハリエンジュ	55	25.6	
3	ミズナラ	30	13.0	
	ミズナラ	65	21.7	
4	ハリエンジュ	120	21.5	
5	ドロノキ	120	30.3	
6	イチヨウ	60	24.3	双幹
		60	23.0	
7	エゾヤマザクラ	55	12.2	
8	ハルニレ	70	21.8	
9	ストロブマツ	60	26.3	
10	ハルニレ	55	21.3	

Zone2-2				
No.	樹種	胸高直径(cm)	樹高(m)	備考
1	ヨーロッパアカマツ	30-50	12.0-13.2	範囲内に6本
2	イチヨウ	60	17.3	
3	エゾイタヤ(イタヤカエテ)	65	20.5	
4	ヤチダモ	95	25.3	
5	セイヨウハコヤナギ	80-130	31.3-33.8	範囲内に3本
6	シロヤナギ	110	30.0	

Zone3-1				
No.	樹種	胸高直径(cm)	樹高(m)	備考
1	エゾイタヤ(イタヤカエテ)	100	15.6	
2	ハルニレ	110	18.5	
3	エゾイタヤ(イタヤカエテ)	50	14.6	双幹
		60	19.6	
4	ハルニレ	55	16.7	

Zone3-4				
No.	樹種	胸高直径(cm)	樹高(m)	備考
1	ハルニレ	130	20.6	
2	エゾイタヤ(イタヤカエテ)	50	18.2	
3	ハルニレ	50	21.3	双幹
	ハルニレ	50	19.6	

Zone3-5				
No.	樹種	胸高直径(cm)	樹高(m)	備考
1	エゾイタヤ(イタヤカエテ)	60	17.9	
2	ケヤキ	80	17.8	
3	ハルニレ	65	18.6	
4	ヨーロッパクロマツ	65	15.4	

Zone4-1				
No.	樹種	胸高直径(cm)	樹高(m)	備考
1	ハリエンジュ	100	28.4	
2	エゾヤマザクラ	40	16.2	キツツキ穴
	エゾヤマザクラ	45	18.5	
3	ヨーロッパクロマツ	45	20.5	No.254
4	ハルニレ	75	28.2	
5	ミズナラ	65	22.9	
6	ドロノキ	100	29.3	
	ドロノキ	105	32.0	
7	イチヨウ	45	21.9	
	イチヨウ	45	23.1	
8	ドロノキ	75	23.6	
	ドロノキ	80	28.5	
9	ハルニレ	70	22.5	
10	エゾイタヤ(イタヤカエテ)	45	17.4	
11	カツラ	55	19.1	
12	ヨーロッパクロマツ	50	21.8	
13	ミズナラ	60	21.0	
14	ヨーロッパアカマツ	70	21.5	
15	イチヨウ	55	21.1	
16	ストロブマツ	65	27.0	
17	エゾイタヤ(イタヤカエテ)	50	20.4	
18	ハリエンジュ	90	24.1	
19	エゾイタヤ(イタヤカエテ)	30	14.5	樹洞

Zone4-2				
No.	樹種	胸高直径(cm)	樹高(m)	備考
1	ハルニレ	140	33.2	
2	ミズナラ	80	17.9	
3	ミズナラ	65	23.7	
4	ミズナラ	70	20.3	樹洞
5	ミズナラ	65	18.2	

Zone4-3				
No.	樹種	胸高直径(cm)	樹高(m)	備考
1	ハルニレ	100	23.5	
	ハルニレ	45	23.2	
	ハルニレ	150	27.0	

Zone4-4				
No.	樹種	胸高直径(cm)	樹高(m)	備考
1	ハルニレ	105	22.7	
2	イチイ	90	14.1	
3	エゾイタヤ(イタヤカエテ)	60	15.4	

Zone4-5				
No.	樹種	胸高直径(cm)	樹高(m)	備考
1	ハルニレ	110	27.5	
2	ミズナラ	60	21.0	
3	ハルニレ	120	25.9	
4	ハルニレ	120	22.1	

Zone4-6				
No.	樹種	胸高直径(cm)	樹高(m)	備考
1	ハルニレ	70	23.5	双幹
		60	24.3	
2	ハルニレ	70	18.3	
	ハルニレ	65	18.2	
	ハルニレ	65	14.5	巣穴+カラス巢
3	ハルニレ	110	18.1	
4	エゾイタヤ(イタヤカエテ)	50	16.7	
5	ドロノキ	110	20.3	樹洞
6	エゾイタヤ(イタヤカエテ)	50	19.7	
	エゾイタヤ(イタヤカエテ)	40	19.5	
7	チョウセンゴヨウ	50	18.8	
	チョウセンゴヨウ	40	17.9	
8	エゾイタヤ(イタヤカエテ)	50	24.5	
	エゾイタヤ(イタヤカエテ)	50	19.6	
9	ハルニレ	60	25.8	双幹
		70	26.4	
10	ドロノキ	130	28.2	コウモリ営巣
	ドロノキ	30	11.7	
11	ヨーロッパアカマツ	35	12.1	キツツキ穴

Zone4-7				
No.	樹種	胸高直径(cm)	樹高(m)	備考
1	ハルニレ	130	26.8	
2	ミズナラ	65	17.8	
3	チョウセンゴヨウ	50	16.5	
	チョウセンゴヨウ	50	15.0	
	チョウセンゴヨウ	50	9.7	
	チョウセンゴヨウ	50	16.7	
	チョウセンゴヨウ	50	16.3	
	チョウセンゴヨウ	50	16.4	
	チョウセンゴヨウ	50	14.9	
	ミズナラ	50	15.0	

Zone4-8				
No.	樹種	胸高直径(cm)	樹高(m)	備考
1	ヨーロッパアカマツ	40-60	6.7-11.1	範囲内に3本
2	イチヨウ	50	15.8	
3	シダレヤナギ	60	10.8	

Zone4-9				
No.	樹種	胸高直径(cm)	樹高(m)	備考
1	ハルニレ	90	28.3	
2	ドロノキ	125	32.3	
3	ハルニレ	80	23.2	
4	ドロノキ	110	27.4	樹洞

Zone4-10				
No.	樹種	胸高直径(cm)	樹高(m)	備考
1	カラマツ	60	28.4	
2	カラマツ	80	27.6	
3	イチヨウ	65	20.3	
4	ヨーロッパアカマツ	70	24.7	
5	メタセコイヤ	100	26.4	
6	シダレヤナギ	70	23.4	

Zone5-1				
No.	樹種	胸高直径(cm)	樹高(m)	備考
1	エゾイタヤ(イタヤカエテ)	75	18.6	
2	ハルニレ	75	18.9	
3	サクラ	45-60	17.0	範囲内に3本
4	エゾイタヤ(イタヤカエテ)	50	19.7	
5	エゾイタヤ(イタヤカエテ)	30	16.8	
6	エゾイタヤ(イタヤカエテ)	25	18.5	
7	エゾイタヤ(イタヤカエテ)	60	14.1	
	エゾイタヤ(イタヤカエテ)	30	13.4	双幹
		35	13.4	
9	ハルニレ	65	18.6	
10	ヤチダモ	60	17.9	
11	ハルニレ	100	17.3	

Zone5-2				
No.	樹種	胸高直径(cm)	樹高(m)	備考
1	ハルニレ	110	22.5	
2	ハルニレ	95	26.6	
3	ヤチダモ	80	19.7	
4	エゾイタヤ(イタヤカエテ)	40	11.5	
	エゾイタヤ(イタヤカエテ)	55	12.7	
	ヨーロッパトウヒ	40	20.5	
	ヨーロッパトウヒ	50	20.4	
	ヨーロッパトウヒ	40	18.0	
	ヨーロッパトウヒ	65	20.5	

Zone5-3				
No.	樹種	胸高直径(cm)	樹高(m)	備考
1	シダレヤナギ	60	9.7	
2	シダレヤナギ	60	8.6	

Zone5-4				
No.	樹種	胸高直径(cm)	樹高(m)	備考
1	チョウセンゴヨウ	50	14.0	
	チョウセンゴヨウ	70	19.1	
2	チョウセンゴヨウ	50	18.6	
3	カシワ	65	21.7	
4	ヨーロッパトウヒ	50	23.7	
	ヨーロッパトウヒ	55	25.6	
	ヨーロッパトウヒ	35	23.5	
5	カシワ	85	20.7	
6	ハリエンジュ	120	24.5	

Zone5-7				
No.	樹種	胸高直径(cm)	樹高(m)	備考
1	ヨーロッパアカマツ	60	18.9	
2	カラマツ	70	21.1	
3	イチイ	60	6.1	
4	チョウセンゴヨウ	65	17.1	
5	エゾイタヤ(イタヤカエテ)	70	17.5	

Zone6-1				
No.	樹種	胸高直径(cm)	樹高(m)	備考
1	ハリエンジュ	50	17.8	
2	エゾイタヤ	20-50	10.0-18.3	範囲内に4本
3	ハリエンジュ	40-50	15.0-19.9	範囲内に4本
4	オニグルミ	40	10.0	
5	ハルニレ	50	20.9	
	ハリエンジュ	50	18.8	No.132
6	ハリエンジュ	50	19.0	No.131
	ハリエンジュ	45	21.0	No.118
	ハルニレ	65	23.2	
7	ハルニレ	80	17.0	
9	ハルニレ	35	13.5	
10	ヨーロッパアカマツ	45	15.0	

Zone6-2				
No.	樹種	胸高直径(cm)	樹高(m)	備考
1	ヤマグワ	40	10.7	
	ヤマグワ	40	11.8	
2	ハルニレ	70	20.8	
3	ハルニレ	50	22.2	
4	シラカンバ	45		

(3) 緩斜面化箇所維持管理

- ・樹木の生育，枯損状況を確認しながら，その結果に応じた管理（順応的管理）を行う。

緩斜面化箇所の植栽木は，成長不良や枯損も想定されることから，生育状況を監視して，除草や施肥等の適切な維持管理を行っていきます。移植木や通気対策を施す保全木は，将来的な生育について不確実性もあることから，監視結果に応じた補植等の対策を講じます。

植栽直後の緑の量を確保するために導入する早生樹種に関しては，放置すると周辺の樹木を被圧する可能性があることから，周囲の樹木の形成状況を確認し，20～30年後を目処に適切な時期に除去を行います。

樹林を育て維持していくのに必要と考えられる維持管理メニューを表 19に示します。

表 19 維持管理メニュー

	植栽直後	20年後	50年後	100年後
成長イメージ				
管理メニュー	監視 除草 補植 支柱除去	監視 補植 剪定 早生樹種の除去	監視 剪定 危険木除去	監視 剪定 危険木除去 更新樹木植栽
備考	早生樹種を混植	生育密度を確認	危険木診断	危険木診断

(4) 市民協働による維持管理

よりよい常磐公園の緑を守り育てていくために、市民協働が不可欠となっています。公園における市民協働は、単にコストの低減になるだけではなく、公園を「自分たちがつくっている」という意識の向上から公園に愛着を持って、大事に利用していただけることにつながります。

現在、常磐公園の維持管理については、公園愛護協力会やボランティアによる清掃活動等で既に御協力いただいておりますが、本植栽箇所への樹木や緑の維持管理についても積極的な市民協働を進めていきます。

【体制づくり】

市民と行政が深いコミュニケーションを図り、市民の意見を取り入れながら公園利用者のニーズにあった維持管理を行うため、市民と行政が一体となって継続的に活動を行う体制づくりをすすめます。

【活動内容】

○緑に関する維持管理活動

公園の下草刈りや落葉清掃は、快適な公園空間を創り出す重要な作業です。市民の手により、快適な公園を創り出すことは公園管理に対する意識向上につながります。

○樹木のパトロール

危険木判定表を基に樹木個々の状態を記した樹木台帳や簡単な管理マニュアルを作成し、市民の協力を得て定期的なパトロールを行うことで、樹木の状態を継続的に管理できます。

○植樹活動

市民の方々の手により、直接植樹をすることにより、樹木に対する愛着が湧き、特に子どもたちの樹木への関心を高めることで、長い年月に渡って、責任を持って管理することができます。

○イベントの開催

常磐公園の貴重なオープンスペースと歴史ある多彩な樹木を活かしたイベントを通して、市民の興味や関心を高めることができ、今後の常磐公園に対する様々な活動へとつながっていきます。

○モニタリング調査

平成25～26年に実施した自然環境調査の結果を踏まえ、継続的にモニタリング調査を行い、公園内の環境を把握することにより、公園内の生態系に配慮した維持管理をすることができます。



○常磐公園ガーデンボランティア
常磐公園中央花壇で、花壇の花の手入れや除草を実施しています。



○常磐公園ガーデンボランティア
樹木の苗づくり～植樹～監視・管理等公園整備への参加を呼びかけていきます。

○ワークショップ開催状況

・第1回ワークショップ

日 時 : 平成26年9月9日 (火) 18:30~20:00
出席者 : 市民15名, 専門家1名 (オブザーバー) 計16名
内 容 : 将来の常磐公園について望むこと/みどりの問題について/問題の解決方法

・第2回ワークショップ

日 時 : 平成26年10月21日 (火) 18:30~20:15
出席者 : 市民12名, 専門家2名 (オブザーバー) 計14名
内 容 : 現地を知って考えたこと/復元する空間はどのような空間にしたいか

現地視察

日 時 : 平成26年10月19日 (日) 13:30~15:00
出席者 : 市民12名, 専門家2名 (オブザーバー) 計14名

・第3回ワークショップ

日 時 : 平成26年12月2日 (火) 18:30~20:15
出席者 : 市民12名, 専門家3名 (オブザーバー) 計15名
内 容 : 合成平面図 (試案) について

・第4回ワークショップ

日 時 : 平成27年1月27日 (火) 18:30~20:00
出席者 : 市民14名, 専門家3名 (オブザーバー), 傍聴者5名 計22名
内 容 : 植栽計画 (素案) について

・第5回ワークショップ

日 時 : 平成27年3月6日 (金) 18:30~20:00
出席者 : 市民●名, 専門家●名 (オブザーバー), 傍聴者●名 計●名
内 容 : 植栽計画 (案) について/相対する意見について